

学ぶ喜びと分かる楽しさを子どもたちに

平群町立平群西小学校

はじめに

本校は全校児童120名、各学年1学級20名程度の児童で編成された小規模校である。児童の実態も把握しやすく、学校全体で新しいことにも比較的取り組みやすい。

全国学力・学習状況調査の結果から、本校児童の学力向上のためには、学びたい、分かりたいという学習意欲の向上が必要であると考えた。

その学習意欲を高めるには、基礎学力の向上とそれに向けた学校体制の整備、授業改善とともに、基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成を図らなければならないと考えた。そこで、基本的生活習慣や規範意識の確立に向けた取組のために、家庭や地域と連携するシステムづくりにも取り組んだ。

1 基本的生活習慣や学習規律の確立

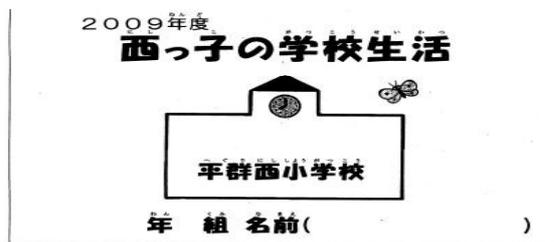
チャイムがなってもなかなか教室に入らず遊んでいる。また、そうじにも行かない。注意すると、時には言い返す児童もいる。

そうした状況の中、教職員で一致した指導と連携を図り、指導の入りにくい児童へは複数の教職員で対応し、連絡を取り合って指導の徹底を図った。昨年度は問題行動への対処に重点を置いたため、やや計画性に欠ける面があったが、本年度は生徒指導部会を定期的に設け、各学年の問題点を常に出し合えるようにした。

保護者には、児童の様子を理解していただくためにフリー参観を行った。全保護者・学校評議員・民生児童委員・幼保関係者等が参加、地域の方にも実態を知ってもらうことができた。平成20年度は6月末から2週間という長期間であったため、児童の本来の姿を見ていただくことができ、保護者から我が子への指導・支援が広がり、保護者同士の連携も見られるようになった。しかし、2週間という期間は児童・教員の双方にとって負担が大きく、本年度は4日間に短縮した。

本年度も多く保護者の参加が見られ、児童の学習する態度に変化があり、ずいぶんよくなったと評価も得ている。

また、「西っ子の学校生活」を本年度の家庭訪問時に各家庭へ配布した。登下校から学校の中での過ごし方、持ち物などについて保護者にも確実に知ってもらい、家庭と協力し合って、基本的生活習慣や学習規律を身に付けさせたいと考えたからである。説明の内容も教職員で共通理解を図り、学年によって違いが出ることがないようにした。どの教員も児童や保護者に同じ説明をすることで、徹底した指導ができるようになってきた。



【 目 次 】

1. 登下校	3
2. 学校内	4
(1) 親の会	4
(2) 学習時間	5
(3) 休み時間	7
(4) 給食	8
(5) そうじ	9
3. 給そう	9
4. 持ち物	10
5. その他	11

さらに、「家庭学習の手引き」（学習する時間など学年に応じて作成）も同時に配布して、学校だけでなく家庭でも基本的な生活習慣の確立を図った。

こうした取組を通して家庭学習の習慣化と、学校での学習規律の確立に向けて、学校と保護者が一体となった取組を進めることができるようになった。

※「西っ子の学校生活」「家庭学習の手引き」作成に当たっては、先進校視察時の資料を参考にした。

2009年 平群西小学校

1年 家庭学習の手引き

1. 1年生で主に学習する内容は、

科目	1学期	2学期	3学期
国語	ひらがな	カタカナ	
算数	10までの数とたし算、ひき算	20までの数とくり上りのあるたし算、くり下がりのあるひき算	100までの数

2. 学校では、こんなことに取り組んでいます。

①算数の学習に、担任の他にもう一人の先生が入って指導することもあります。

②子どもたちが算数を持っているなどをとり上げて、楽しくわかりやすい学習を行っています。

③学習したことが家庭にみにつくようするため、なかよしタイムの時に学習することもあります。

④学習したことを忘れないように、宿題を毎日出します。

3. 子どもたちが学習したいと思えるように、子どもたちががんばらせてあげてほしいこと

家庭学習をがんばるための4つのやくそく

①家庭学習をする場所を決めてやりましょう。

②家庭学習をする時間を決めてやりましょう。
(できれば、家に帰ったらすぐにしましょう。)

③お菓子を食べながらや、テレビを見ながらなどの「ながら学習」をしないで、20分間集中して学習しましょう。

④宿題が終わったら、すぐに前時刻を合わせましょう。

4. 子どものやる気(学習意欲)を伸ばすため、おうちの方にお願ひしたいこと

◇文字や算数、色塗りなど丁寧に書いているかどうかを見てあげてください。

◇宿題や学校で学習したプリントなどを見てあげてください。

◇教科書以外の本を読む(読書)習慣をつけてあげてください。

◇毎日の本読み・計算カードのサインをお願いします。

◇子どもががんばったことをほめてあげてください。

1年生のこの時期は、「自分ががんばれた」ことをおうちのの方に褒めてもらうことによって、「自分が褒められている」といった気持ちを持ち、子どもたちはどんどんやる気が出ます。子どものがんばっているところをぜひほめてあげてください。

また、子どもたちがまちがえたりした時に、怒ったりせずに、褒めがばらうという気持ちになるように褒めてあげてください。

5. 規則正しい生活を送れるようにしてあげてください。

◇子どもたちが、毎日元気に勉強や遊びに取り組めるように、特に次のことを大事にしてあげてください。

GOOD MORNING!

◇朝は7時には起床し、夜は9時には、布団に入るようにさせましょう。

◇朝ご飯をしっかり食べさせましょう。

* * * よろしくお願ひします。 * * *

2 基礎学力向上に向けた取組の推進 ー学ぶことが楽しく、分かる授業づくりー

○朝学習

毎朝始業前の15分間、読書・計算問題（百マス計算）・漢字練習などに取り組む。そのため、職員の朝の打合せは短時間で終わるように工夫し、担任は朝学習の指導に当たる。時間は短いですが、集中して取り組んでいるので静かな学習風景である。計算問題が速くできるようになったという成果も出ている。

○あすなるタイム

毎週金曜日6校時に、高学年（4年～6年）を少人数に分けて、算数や国語の学習の習熟を図るため、漢字プリントや音読ドリル、わくわくワーク等を活用。担任以外にも低学年や専科の教員も指導に当たる。個に応じた学習ができるため、理解もし易く、意欲的に取り組んでいる。漢字の勉強をよくするようになり、漢字の読み書きもできるようになってきたという家庭からの声もあった。

○夏休み学習教室

夏休みのプール開放日に合わせ、希望者を対象に分かりにくかった学習の復習を行った。少人数なので分けにくい所を自分から質問することができ理解も深まった。

○校内研究

教員を相手にした模擬授業を行い、分かる授業を研究した。児童の立場となって授業を見つめ直す機会となり、よりよい発問の仕方、ノートに書かせるときの工夫など活発な意見交換の場となった。さらに、児童が夢中になった教材、指導の工夫を紹介し合うことで、日々の授業に生かすことができた。

○ゲストティーチャーの招へい

コルク画を描く先生、点字に詳しい先生、折り紙の先生等、より知識の豊富なゲストティーチャーに来ていただいて興味深く学習できるようにする。また、地域には古墳群があり、歴史に精通する地元の方に現地で説明してもらうこと等、地域の人材も活用している。ゲストティーチャーの授業は、専門的で興味深い内容もあり、集中して聞くことができる。また、児童の理解も深まっている。

3 学習意欲向上に向けて ― 自尊感情を高める ―

○ 中学校教員による出前授業

自分に自信がもてず、どうせ勉強しても・・・と将来への希望をもてずあきらめてしまう児童もいたことから、6年生を対象に、中学校の教員による「出前授業」を実施している。平成20年度には、3学期後半に中学校の理科、英語担当教員が小学校で授業を行った。静かに集中して学習する姿が見られ、児童は中学校に進学する期待と安心感がもてた。



○ 「ようこそ先輩」

これは、本校の卒業生の中で、あきらめず努力を重ねて活躍している人たちを紹介する取組である。体操・バレーボール・卓球・テニスの大会でメダルを獲得した高校生や中学生がいる。ピアノ演奏でプロの演奏家と共に大きな舞台上に立った中学生、美容師の技能オリンピックで金メダルをとった卒業生などもある。そうした先輩が掲載された新聞記事やポスターを職員室前の掲示板に掲示した。掲示板前で足を止め、「すごいなあ。」「この人、知ってる。」と食い入るように記事を見ている児童も見られる。そうした児童は、始業のチャイムがなるとすぐに教室に向かい、先輩に追いつこうという思いから学習する姿が見られ、学習意欲の高まりにつながっている。



また、中学校で生徒会長を務める生徒の話ビデオ撮影して、全校児童に伝えた。今後学習発表会の場や講演会で生のピアノの演奏や歌声を聴かせてもらうなど、紹介を行っていく予定である。このような先輩たちの活躍を見聞きして、学習だけでなくスポーツ教室などにも熱心に参加し、自分もできるという将来への希望をもった児童も見られる。

○ 奉仕活動や委員会活動の充実 ― 児童が活躍する場づくり ―

学校前の長い坂は、落ち葉が多く、登下校のときに歩きにくさを感じる場所である。そこで、高学年が中心になって清掃作業を行った。作業の後、きれいになったという充実感やみんなでやり遂げた達成感、地域の人から褒められた嬉しさ、自分のやったことがみんなの役に立って認めもらえる、という感情が芽生えた。委員会でも日々の活動を着実にやることはもちろん、全校朝会で取組を紹介した。みんなの前で堂々

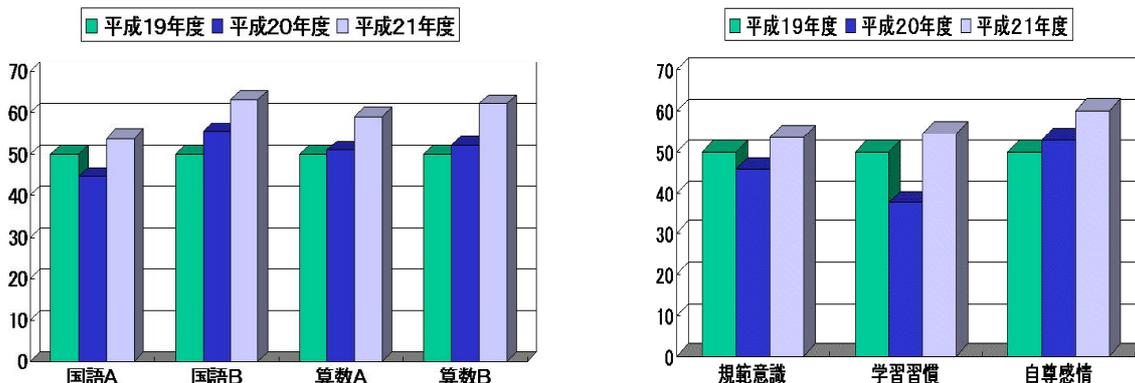


通学路の清掃風景や企画委員会が中心になっておこなった「六年生を送る会」の行事の様子を伝える掲示物

と話すという緊張はあるものの、みんなの前で認められる喜びがある。そして、児童のがんばりに、みんなであたたかい賞賛の言葉を贈る。その繰り返して、自尊感情は確実に高まっていく。全校朝会もだんだん静かに行えるようになり、聞く態度にも成長の様子が見えてきた。

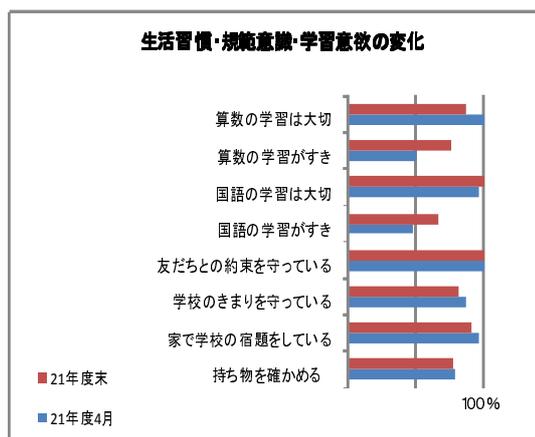
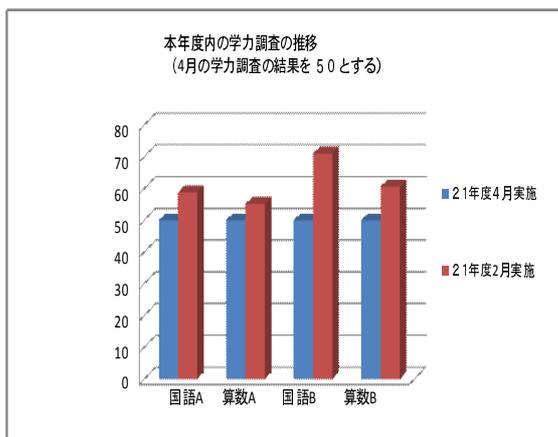
4 取組の成果と課題

平成19・20・21年度の全国学力・学習状況調査の結果の推移（平成19年度の調査結果を50とする）



本校の全国学力・学習状況調査の推移を見てみると、少しずつ状況は上向いていると言える。平成21年度では平成19年度と比べ全体に伸びも大きく、国語Bと算数Bが10ポイント以上の伸びを示している。特に算数Bは全国平均を上回る平均正答率であった。児童質問紙にあった学校でのきまりを守る、あいさつをするなど規範意識や自分の将来に希望をもち、自分を肯定的にとらえる自尊感情も上昇している。4月に行った全国学力・学習状況調査を2月に再度実施したところ、すべての教科に関する調査で、平均正答数が2ポイント上昇しており、この1年間で学力がついたこと明らかとなった。また、無解答率について見てみると、4月に30.4%であった国語Bの問題では、8%になり、22ポイントの上昇が見られた。あきらめずに考えようという姿勢の表れととらえることができる。

さらに、「教科の学習が好き」と答える児童が増え、国語でも算数でも、「学習が好き」と答えた児童の割合と「大切である」と答えた児童の割合の差は、4月の調査より縮まっている。本校のテーマである「学ぶ喜びと分かる楽しさ」を児童も感じるようになったのではないかと考えられる。



しかし、無解答の多い児童が変わらずいる。本校では、不登校気味であったり、教室に入ることができなかつたりする児童にその傾向が見られる。今まで取り組んできた家庭や地域との連携の継続、学習意欲を高める授業づくりの取組はもちろん、互いに思いやりのある言葉かけができること、教室に入ることができない児童への周りの児童への働きかけや、集団としての力を高める取組を今後も考えていかなければならない。